

吉村典子、村木重之、岡敬之、川口浩、中村耕三、阿久根徹	腰痛の疫学-大規模疫学調査ROADから	日整会誌	84	437-439	2010
村木重之、阿久根徹、岡敬之、中村耕三、川口浩、吉村典子	腰椎圧迫骨折は他の慢性疾患よりもQOLを低下させる -ROAD study-	Osteoporos Jpn	18	33-37	2010
岡敬之、吉村典子	骨量減少症 (osteopenia) の自然史と予後への影響 : 17年にわたる長期縦断住民コホート調査から(概説)	Osteoporos Jpn,			in press
村木重之、阿久根徹、岡敬之、中村耕三、川口浩、吉村典子	大規模コホートスタディによる骨関節疾患と食事および運動との関連 -The ROAD study-	Osteoporos Jpn			in press
吉村典子	肥満症 10.骨・関節疾患	日本臨床	68	404-409	2010
吉村典子	ロコモティブシンドローム 4. 一般住民における運動器障害の疫学-大規模疫学調査ROADより	The Bone	24	39-42	2010
吉村典子	高齢者の運動機能障害. 疫学調査	臨床スポーツ医学	27	7-10	2010
吉村典子	コホート調査からみえるロコモティブシンドローム : 大規模住民調査ROADより	Modern Physician	30	467-469	2010
吉村典子	ロコモティブシンドロームの疫学的実態 : 大規模住民調査ROADより	運動療法と物理療法 (J Physical Medicine)	20(4)	305-310	2010
吉村典子	運動器疾患の疫学、1.地域コホート研究による運動器疾患の疫学	治療学	44(7)	766-770	2010
吉村典子	高齢者の運動器障害の疫学・現状. 診断と治療特集ロコモティブシンドローム	診断と治療	98	1767-1771	2010
吉村典子	ロコモティブシンドロームの疫学1) ROAD studyより.	Progress in Medicine	30	3017-3020	2010
吉村典子	高齢者の要介護予防におけるロコモティブシンドロームの重要性	Best Bone Care	8	3-4	2010
吉村典子	大規模住民調査からみえてきた運動器疾患の実態: ROAD study	医学のあゆみ	236	315-318	2010
吉村典子	ロコモの疫学	Monthly Book Orthopaedics			in press

吉村典子	腰痛・膝痛・骨折に関する大規模コホート追跡研究	長寿科学研究業績集：運動器疾患の予防と治療				in press
吉村典子	大腿骨頸部骨折の発生率の世界的動向	Bone Journal Club 骨粗鬆症治療				in press
吉村典子	ロコモの疫学	Monthly Book Orthopaedics 2011年特集号「運動器病対策の基本戦略 ロコモとマーズ」				in press
中村耕三、吉村典子、阿久根徹、川口浩、石橋英明	ロコモティブシンドローム	日本臨床				in press
吉村典子	わが国における変形性関節症の疫学：大規模住民コホート研究 ROAD より	Clinial Calcium				in press
中村耕三	【特集 ロコモティブシンドローム】 ロコモティブシンドロームの特集にあたって (巻頭言)	Modern Physician	30	461-463		2010
中村耕三	特集 ロコモティブシンドロームを知っていますか	健康づくり	9	7		2010
中村耕三	ロコモティブシンドロームを防ごう① ロコモーショントレーニング (ロコトレ) その1	健康づくり	11	19-21		2010
中村耕三	ロコモティブシンドロームとしての腰痛	CLINICIAN	57	872-877		2010
筑田博隆、中村耕三	後縦靭帯骨化症の最新治療	PYSICIANS' THERAPY MANUAL、	8	インターネット配信		2010
中村耕三	ロコモティブシンドロームと転倒・転落 (特集 高齢者の転倒・転落)	骨粗鬆症治療	9	210-216		2010
中村耕三	特集ロコモティブシンドロームと生活習慣病 序文.	Progress in Medicine	30	2997-2998		2010
中村耕三	ロコモティブシンドロームと生活習慣病 (Overview) 特集ロコモティブシンドロームと生活習慣病	Progress in Medicine	30 :	2999-3003		2010
中村耕三	ロコモティブシンドローム 軟骨・椎間板に注意	Medical Practice	27	1590-1592		2010
中村耕三	F 変形性関節症 I変形性関節症—総論 リウマチ病学テキスト	診断と治療社		308-311		2010

中村耕三	”ロコモティブシンドローム”特集にあたって	医学のあゆみ	236	311-312	2011
中村耕三	ロコモティブシンドロームの概念	医学のあゆみ	236	347-352	2011
中村耕三	超高齢社会におけるロコモティブシンドロームの意義 (ロコモティブシンドロームと要介護予防)	Aging & Health	56	6-7	2011
中村耕三	ロコモティブシンドローム-高齢者の運動器障害-(特集:老年医学・医療への抱負と期待)	Geriatric Medicine	49	40-43	2011
中村耕三	「ロコモティブシンドロームと運動器不安定症-運動器健診の実施による介護予防を目指して-」 序文 (第82回日本整形学会学術集会 シンポジウム)	日本整形外科学会雑誌	85	1-2	2011
藤原佐枝子	骨折リスク予測法とその臨床応用	総合臨床	59	538-539	2010
藤原佐枝子	放射線影響研究所の研究の歩み	広島医学	63	244-247	2010
藤原佐枝子	骨量の評価と骨折リスク・FRAX	臨床と研究	87	887-890	2010
藤原佐枝子	骨折の危険因子と骨折リスクアセスメント (FRAX)	Medical Practice	27	953-957	2010
Fujiwara S	Importance of raising awareness about spontaneous insufficiency fractures in the bedridden elderly	Int. J. Clin. Rheumatol,	5	395-397	2010
藤原佐枝子	FRAX	カレントセラピー	29	32-35	2011
阿生田博子、大森豪、山崎健、田中正栄、西野勝敏	全身振動刺激装置を用いたトレーニングが筋力と筋量に及ぼす影響.	日本臨床スポーツ医学会雑誌	18	349-354	2010
渡邊聡、山際浩史、佐藤卓、谷藤理、古賀良生、大森豪	人工膝関節置換術における大腿骨-脛骨間の回旋変位	JOSKAS	35	32-33.	2010
大森豪	小児骨折の疫学	Clinical Calcium	20	59-64	2010
大森豪	疫学調査から見た危険因子と生活指導	関節外科	29	24-30	2010
織田広司、林豊彦、大森豪、渡辺聡、谷藤理、佐藤卓、古賀良生	関節鏡視下手術支援システムを用いた大腿骨孔位置の決定	臨床バイオメカニクス	31	327-332	2010

笹川圭右、坂本信、小林公一、古賀良生、佐藤卓、田邊祐治、 <u>大森豪</u>	MRI骨・軟骨モデルを用いた3次元下肢アライメント評価システムの精度評価	臨床バイオメカニクス	31	341-348	2010
小田川健一、豊田貴嗣、笹川圭右、小林公一、坂本信、田邊祐治、谷藤理、佐藤卓、古賀良生、 <u>大森豪</u>	イメージレジストレーション法による膝関節の接触動態解析	臨床バイオメカニクス	31	349-356	2010
木村太郎、松尾智史、西野勝敏、田邊祐治、古賀良生、 <u>大森豪</u>	内側型変形性膝関節症における歩行時スラスト現象と3次元下肢荷重線の関連性	臨床バイオメカニクス	31	401-408	2010
<u>大森豪</u>	初期治療のために揃えておくべき薬品・医療器材	臨床スポーツ医学	27 臨時増刊号	33-37	2010
渡辺聡、佐藤卓、谷藤理、古賀良生、山際浩史、 <u>大森豪</u>	人工膝関節置換術における大腿骨-脛骨間の回旋変位	日本人工関節学会誌	40	144-145	2010
村山敬之、佐藤卓、渡辺聡、山際浩史、 <u>大森豪</u> 、古賀良生、遠藤直人	TKA後の大腿骨顆上骨折に対する逆行性髄内釘の限界と問題点	日本人工関節学会誌	40	522-523	2010
望月友晴、佐藤卓、山際浩史、小林公一、渡辺聡、谷藤理、 <u>大森豪</u> 、古賀良生、遠藤直人	TKAにおける transepicondylar axisから見た大腿骨顆部形状変化	日本人工関節学会誌	40	592-593	2010
渡辺博史、古賀良生、 <u>大森豪</u> 、遠藤和男、岩崎徹治、縄田厚、秋丸舞	膝伸展筋力低下と変形性膝関節症の関連性についての縦断的検討 - 筋力は本当に膝OAと関連したか？	運動・物理療法 (J. Physical Medicine)	21	45-50	2010
縄丸舞、縄田厚、岩崎徹治、古賀良生、 <u>大森豪</u> 、遠藤和男、渡辺博史	訓練機器を用いた大腿四頭筋セッティングにおける筋活動性に対する検討	運動・物理療法 (J. Physical Medicine)	21	59-64	2010
岡村直樹、長谷川正裕、 <u>須藤啓広</u> 、内田淳正	多関節に対して観血的治療を施行した血友病関節症の1例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	53	449-450	2010
辻井雅也、里中東彦、堀和一郎、長谷川正裕、 <u>須藤啓広</u> 、飯田竜	Dupuytren拘縮の基礎と臨床】 Dupuytren拘縮の病因オステオポニン発現の検討	整形・災害外科	53	223-229	2010
川本雅渉、辻井雅也、飯田竜、長谷川正裕、植村和司、 <u>須藤啓広</u>	烏口突起下転位を認めた鎖骨遠位部骨折の1例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	53	313-314	2010
吉田格之進、長谷川正裕、 <u>須藤啓広</u> 、内田淳正	抗菌薬含有ハイドロキシアパタイトを用いた感染性人工膝関節の治療経験	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	53	339-340	2010

三浦良浩、中村知樹、松峯昭彦、西山正紀、松本壽夫、須藤啓広	下腿血管腫により尖足を生じた2例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	53	409-410	2010
長谷川正裕、須藤啓広、内田淳正	脛骨内顆骨壊死の病因・病態の検討	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	53	125-126	2010
西村明展、加藤公、福田亜紀、森田哲正、渥美覚、須藤啓広	陳旧性アキレス腱断裂症例が陳旧性になってから診断に至る原因の検討	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	53	537-538	2010
里中東彦、植村和司、倉田竜也、辻井雅也、武田裕子、須藤啓広	高齢者大腿骨近位部骨折の検討 60~89歳と90歳以上高齢者の比較	整形外科	61	961-965	2010
西村明展、須藤啓広、長谷川正裕、加藤公、山田知美、内田淳正	変形性膝関節症の進行に関与する危険因子の検討 宮川村検診追跡調査より	JOSKAS	35	134-135	2010
須藤啓広、長谷川正裕、若林弘樹	フルポーラスロングステムを用いた大腿側再置換術の中期成績	日本関節病学会誌	29	183-188	2010
長谷川正裕、川村豪伸、若林弘樹、須藤啓広、内田淳正	膝蓋骨の血流よりみたMIS TKAの有用性	日本関節病学会誌	29	207-211	2010
坂野真士、須藤啓広、長谷川正裕、廣瀬士朗、森将恒、森敦幸、清水孝志、光山浩人、小林正明、水谷潤、星野裕信、中川雅人、小崎直人、内田淳正、佐藤啓二、清水克時、大塚隆信、山田治基、石黒直樹	東海地区における静脈血栓塞栓症に関する多施設調査	臨床整形外科	45	827-834	2010
長谷川正裕、須藤啓広	フルポーラスロングステムを用いた人工股関節再置換術の中期成績	Hip Joint	36	290-293	2010
長谷川正裕、須藤啓広	大腿骨頭壊死症に対する trochanteric flip osteotomy を用いた大腿骨頭表面置換術	Hip Joint	36	549-552	2010
長谷川正裕、吉田格之進、若林弘樹、須藤啓広	大径骨頭を用いたMetal-on-metal THA後の血中金属イオン濃度	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	53	761-762	2010
吉田格之進、長谷川正裕、若林弘樹、須藤啓広	PCA型人工股関節の長期成績	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	53	815-816	2010
西村明展、加藤公、福田亜紀、須藤啓広	外傷後変形性距踵関節症に対し、鏡視下関節固定術を行った1例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	53	1103-1104	2010

三浦良浩、辻井雅也、小川明人、里中東彦、須藤啓広	小指屈筋腱皮下断裂の2例	中部日本整形外科学会災害外科学会雑誌	53	1147-1148	2010
西村誠、倉田竜也、藤原達彦、近藤哲士、塩川靖夫、井阪直樹、須藤啓広	人工股・膝関節置換術前後における下肢深部静脈血栓の発生率	東海関節	2	13-16	2010
山口敏郎、長谷川正裕、新美壘、須藤啓広	フォンダパリヌクス投与による下肢人工関節置換術後の深部静脈血栓症の予防効果について	東海関節	2	21-25	2010
里中東彦、辻井雅也、長谷川正裕、若林弘樹、平田仁、須藤啓広	半拘束型人工肘関節置換術の治療成績	中部日本整形外科学会災害外科学会雑誌	53	1279-1280	2010
辻井雅也、植村和司、里中東彦、堀和一郎、平田仁、須藤啓広	手根中央関節鏡視下手術が有用であった手根骨障害	中部日本整形外科学会災害外科学会雑誌	53	1391-1392	2010
堀和一郎、新美壘、内田淳正、松峯昭彦、須藤啓広	脳神経腫瘍を合併したOllier病の1例	中部日本整形外科学会災害外科学会雑誌	53	1397-1398	2010
中川太郎、松峯昭彦、中村知樹、三浦良浩、新美壘、須藤啓広	骨肉腫治療後に発生したEwing肉腫の1例	中部日本整形外科学会災害外科学会雑誌	53	1399-1400	2010
里中東彦、辻井雅也、飯田竜、平田仁、須藤啓広	Semi-constrained Total Elbow Arthroplastyの治療成績	日本手外科学会雑誌	27	472-476	2011
里中東彦、辻井雅也、飯田竜、平田仁、須藤啓広	Semi-constrained Total Elbow Arthroplastyの治療成績	日本手外科学会雑誌	27	472-476	2011
竹村真里枝、松井康素、原田教、安藤富士子、下方浩史	一般住民における動脈硬化と骨粗鬆症の関連	Osteoporosis Japan	18	228-231	2010
下方浩史、安藤富士子	疾病予防のための理想的な生活。生活習慣改善による疾病予防－エビデンスを求めて	成人病と生活習慣病	40	1026-1031	2010
下方浩史、安藤富士子	運動器疾患の長期縦断疫学研究。ロコモティブシンドロームと生活習慣病	Progress in Medicine	30	3021-3024	2010
下方浩史、安藤富士子	運動器疾患の長期縦断疫学研究。ロコモティブシンドローム－運動器科学の新時代	医学のあゆみ	235	319-324	2011
金興烈、李成喆、森あさか、安藤富士子、下方浩史	歩行速度（無次元速度）の性差と年代差に関する考察	日本未病システム学会誌			in press

李成喆、金興烈、森あさか、安藤富士子、 <u>下方浩史</u>	地域在住中高年者の下肢筋力と重心動揺の関連に関する横断的検討	日本未病システム学会誌			in press
安藤富士子、北村伊都子、金興烈、李成喆、 <u>下方浩史</u>	潜在性慢性炎症と中高年者のサルコペニアに関する縦断的検討	日本未病システム学会誌			in press
<u>下方浩史</u> 、安藤富士子	サルコペニアの疫学	Modern Physician			in press
<u>下方浩史</u> 、安藤富士子	虚弱の危険因子、高齢者の虚弱－評価と対策－	Geriatric Medicine			in press

IV. 研究成果の刊行物・別刷

COHORT PROFILE

Cohort Profile: Research on Osteoarthritis/ Osteoporosis Against Disability study

Noriko Yoshimura,^{1*} Shigeyuki Muraki,² Hiroyuki Oka,¹ Hiroshi Kawaguchi,³ Kozo Nakamura³ and Toru Akune²

Accepted 15 July 2009

How did the study come about?

Since the proportion of the ageing population in Japan is increasing, a comprehensive and evidence-based strategy is urgently required for the prevention of musculoskeletal diseases, including osteoarthritis (OA) and osteoporosis (OP), both of which affect the activities of daily living (ADL) and quality of life (QOL) and increase morbidity and mortality.^{1–4} However, few prospective, longitudinal studies for the purpose of developing such a strategy have been conducted, and little information is available regarding the prevalence and incidence of musculoskeletal disorders, including OA and OP, as well as pain and disability in the Japanese population.^{5–10} It is difficult to design rational clinical and public health approaches for the diagnosis, evaluation and prevention of OA and OP without such epidemiological data.

The Research on Osteoarthritis/osteoporosis Against Disability (ROAD) study was established in 2005 by N.Y., T.A., H.O., S.M., H.K. and K.N. (principal investigators). The principal investigators are affiliated with the 22nd Century Medical and Research Center, University of Tokyo.

What does the ROAD study cover?

The ROAD study is a multi-centre prospective observational study that aims to elucidate the environmental and genetic background of bone and joint diseases (with OA and OP as the representative bone and joint diseases). It is designed to examine the extent to which risk factors for these diseases are related to

the clinical features of the diseases, laboratory and radiographic findings, bone mass, bone geometry, lifestyle, nutritional factors, anthropometric and neuromuscular measures and fall propensity. It also aims to determine how these diseases affect the ADL and QOL of Japanese men and women.

The study will provide the information required to develop clinical algorithms for the early identification of potential high-risk populations. It will also provide information required to develop policies for the detection and prevention of OA, OP and osteoporotic fractures. The immediate goal of this study is to establish a representative population of elderly people, principally for the study of bone and joint health. The establishment of this cohort will also facilitate the expansion of other studies in related areas of investigation. Moreover, the knowledge gained from the ROAD study will have major implications for understanding and managing several other common problems of ageing.

Who are in the sample?

The subjects were residents of any one of the three communities that have different characteristics: an urban region in Itabashi, Tokyo; a mountainous region in Hidakagawa, Wakayama; and a coastal region in Taiji, Wakayama (Figure 1). The inclusion criteria, apart from residence in the communities mentioned above, were the ability to (i) walk to the survey site, (ii) report data and (iii) understand and sign an informed consent form. The age of the participants recruited from the urban region was ≥ 60 years, and that of the participants from the other

¹ Department of Joint Disease Research, 22nd Century Medical and Research Centre, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, Tokyo, Japan.

² Department of Clinical Motor System Medicine, 22nd Century Medical and Research Centre, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, Tokyo, Japan.

³ Department of Orthopedic Surgery, Faculty of Medicine, University of Tokyo, Tokyo, Japan.

* Corresponding author. Department of Joint Disease Research, 22nd Century Medical and Research Centre, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8655, Japan. E-mail: YOSHIMURAN-ORT@h.u-tokyo.ac.jp

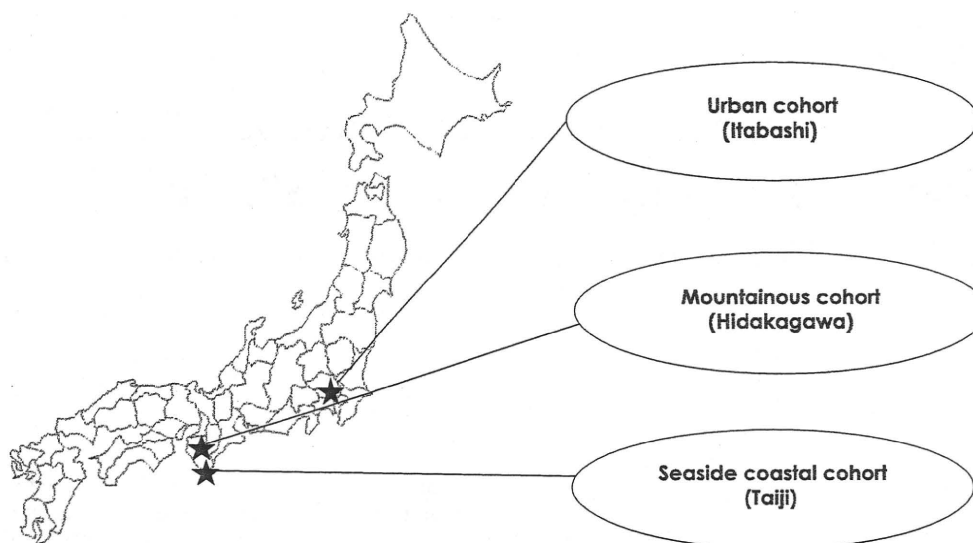


Figure 1 Locations of the three regions from which the study cohort was derived

Table 1 Age-sex distribution and mean values [standard deviation (SD)] of selected characteristics of the participants

Age strata (years)	Men				Women			
	Total	Urban	Mountainous	Coastal	Total	Urban	Mountainous	Coastal
≤39	14	0	2	12	31	0	7	24
40-49	44	0	7	37	105	0	17	88
50-59	107	0	36	71	211	2	67	142
60-69	168	11	93	64	385	60	183	142
70-79	535	315	150	70	913	594	196	123
≥80	193	139	31	23	334	229	75	30
Total	1061	465	319	277	1979	885	545	549
Age (years)	71.0 (10.7)	77.2 (4.3)	69.5 (9.1)	62.6 (13.2)	69.9 (11.2)	76.3 (5.0)	68.6 (10.4)	60.8 (12.5)
Height (cm)	162.5 (6.7)	161.3 (5.9)	161.4 (6.9)	165.8 (6.8)	149.8 (6.5)	148.5 (5.6)	148.2 (6.7)	153.2 (6.2)
Weight (kg)	61.3 (10.0)	60.0 (8.5)	60.0 (10.2)	64.8 (11.0)	51.5 (8.6)	50.8 (8.3)	50.5 (8.6)	53.5 (8.8)
BMI (kg/m ²)	23.1 (3.0)	23.0 (2.8)	23.0 (3.0)	23.5 (3.4)	22.9 (3.5)	23.0 (3.4)	23.0 (3.4)	22.8 (3.6)
Current smoker (%)	25.9	19.0	28.9	31.1	3.5	2.9	4.7	2.9
Current drinker (%)	64.4	60.5	69.8	63.2	25.9	27.4	26.1	24.2

BMI = body mass index.

two regions was ≥40 years. In the urban region, invitation letters were distributed only to the inhabitants whose name was on a list of community-dwelling people that was prepared in 2002.¹¹

Subjects from each area who were willing to attend the study were invited to participate. Despite being younger (58 years) than the age limit defined in the inclusion criteria, 2 inhabitants from the urban area, 9 from the mountainous area and 36 from the coastal area were included in the study because they were very keen to participate. Over the 1.5-year

period from October 2005 to March 2007, 3040 of 5785 candidates were enrolled from the three regions (participation rate, 52.5%).

Selected characteristics of the study population, including age, height, weight, BMI and proportions of participants who smoked and consumed alcohol, are shown in Table 1. In the urban, mountainous and coastal areas, 99.8, 84.3 and 54.7% of the participants, respectively, were >60 years of age. Two-thirds of the participants were women, and their mean age was 1 year less than that of the male

participants. No significant differences were observed in BMI values between the genders, but the proportions of both current smokers and alcohol consumers were significantly higher among men than among women.

All participants provided written informed consent, and the study was conducted with the approval of the ethics committees of the University of Tokyo (nos 1264 and 1326) and the Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology (no. 5). Careful consideration was given to ensure a safe experience for the participants during the examination and during any other study procedures.

How often have they been followed up?

We intend to follow-up the three population-based cohorts of the ROAD study for at least 10 years. In October 2008, after a follow-up period of 3 years, a second comprehensive clinical examination

was started and is ongoing. We will repeat the baseline measurements during the second examination. A third and fourth examination will be performed at 6 and 10 years, respectively, after the baseline examination.

What has been measured?

The baseline examination of the ROAD study consisted of the following: interviewer-administered questionnaire, dietary assessment, anthropometric measurements, visual and neuromuscular function assessment, biochemical measurements, medical history taking, radiographic assessment and bone mineral density (BMD) measurement (Table 2).

Interviewer-administered questionnaire

A questionnaire was prepared by modifying the questionnaire used in the Osteoporotic Fractures in Men Study (MrOS),¹² and adding some new items to the modified questionnaire. Knee symptoms were

Table 2 Summary of data collected in the ROAD study

Interviewer-administrated questionnaire

Cigarette smoking, alcohol consumption
 Medical history, medications
 Reproductive variables, lactation
 Dietary history, history of falls and fractures
 Physical activity using PASE
 Family history
 Evaluation of knee symptoms using WOMAC
 Health-related QOL (EQ5D, SF-8)

Dietary assessment

Nutrient intake calculated using BDHQ

Anthropometric measurements

Height, weight, arm span, grip strengths
 Circumference of both wrists, circumference of waist
 Heart rate, systolic and diastolic blood pressure

Visual and neuromuscular function

Visual acuity
 Walking speed with tandem walking 6 m x 20 cm
 Rise from a chair

Biochemical measurements

Blood samples	Blood counts, haemoglobin, haemoglobin A1C, blood sugar
Sera	Total protein, AST, ALT, GGT, total cholesterol, HDL-cholesterol, triglyceride BUN, uric acid, creatinine

DNA samples extracted

Urine samples	Urinary protein, occult blood, sugar, urobilinogen
---------------	--

Medical information

Pain in back, lumbar, knee and hip
 Swelling and range of motion of the joints
 Tendon reflexes
 Cognitive function used by Mini-Mental Status Examination

Radiographic assessment

Anteroposterior and lateral views of lumbar spine
 Anteroposterior view of both knees
 Anteroposterior view of both hips

BMD measurements

Lumbar spine and proximal femur (mountainous and coastal areas)

AST=aspartate aminotransferase; ALT=alanine aminotransferase; GGT= γ -glutamyltranspeptidase; HDL=high-density lipoprotein; BUN=blood urea nitrogen; BDHQ=Brief Diet History Questionnaire; PASE=Physical Activity Scale for the Elderly; WOMAC=Western Ontario and McMaster University Osteoarthritis Index; EQ5D=European QOL-5 dimensions instrument; SF-8=Medical Outcomes Study 8-item Short Form.

evaluated using the WOMAC.¹³ The health-related QOL was evaluated using the EuroQOL, EQ5D¹⁴ and the SF-8.¹⁵ The study staff recorded all the medications administered and their doses. Physical activity was quantified using the PASE.¹⁶

Dietary assessment

Dietary assessment was made using a BDHQ, and the dietary intakes of nutrients during the previous month were determined. Each participant received a questionnaire that included detailed explanations. Well-trained interviewers clarified any unclear sections in the questionnaire, which was to be completed by the participants at their leisure. The BDHQ is a four-page structured questionnaire that includes questions about the frequency of consumption of 80 principal foods. The serving sizes of the foods are described as normal portions, i.e. the standard weight and volume of servings commonly consumed by the general Japanese population. The BDHQ was modified from a comprehensive, 16-page version of a validated self-administered diet history questionnaire.¹⁷ A total of 141 components, including dietary energy and nutrient intakes, were calculated using an *ad hoc* computer algorithm for the BDHQ.

Anthropometric measurements

Anthropometric factors were measured by well-trained medical nurses. The height and weight of the participants at age 25 years were also noted. BMI [weight in kilograms/(height in metres)²] was calculated on the basis of the current height and weight.

Visual and neuromuscular function

Visual acuity was assessed by the Landolt ring test. Walking speed was determined by recording the time taken by a subject to walk 6 m at the fastest possible speed. The time required for tandem walking across a 6-m long and 20-cm wide path was used to determine balance. The ability to rise from a chair without using the arms (chair stand) and the ability to perform five chair stands was evaluated; the time required to complete the tasks was noted.

Biochemical measurements

Blood and urine samples were obtained from each participant for biochemical and genomic examinations. Urinary protein, occult blood, sugar and urobilinogen were tested using disposable reagent strips (uro-hema-combi sticks; Siemens Medical Solutions Diagnostics, Tokyo, Japan). Residual blood, plasma, serum and urine specimens were processed and stored in a deep freezer (-80°C). DNA was extracted from stored whole-blood specimens, and biochemical markers of bone turnover and cartilage will be measured using these stored serum and urine samples.

Medical history

Medical history was obtained by experienced orthopaedic surgeons (S.M. and H.O.). To quantify cognitive function, the participants were instructed to complete the modified Mini-Mental Status Examination—Japanese version.¹⁸ Physicians explained any unclear sections of this questionnaire to the participants and assessed the participants' cognitive status on the basis of the completed questionnaire.

Radiographic assessment

The severity of OA was radiographically determined according to the Kellgren–Lawrence (KL) grading system as follows¹⁹: KL0—normal joint; KL1—slight osteophytes; KL2—definite osteophytes; KL3—disc-space narrowing and large osteophytes; and KL4—bone sclerosis, disc-space narrowing and large osteophytes. In the ROAD study, joints that exhibited only disc-space narrowing and no large osteophytes were graded as KL3. The radiographs were examined by a single, experienced orthopaedic surgeon (S.M.), who was blinded to the clinical status of the participants. If at least one knee joint was graded as KL2 or higher, the participant was diagnosed with radiographic knee OA. Similarly, if at least one intervertebral joint of the lumbar spine was graded as KL2 or higher, the participant was diagnosed with radiographic lumbar spondylosis.

BMD measurement

In the mountainous and coastal areas, the BMD of the lumbar spine and proximal femur was measured using dual energy X-ray absorptiometry (DXA) (Hologic Discovery; Hologic, Waltham, MA, USA) during the baseline examination. Another BMD measurement was scheduled for the second examination.

To maintain the quality of measurement, the same DXA equipment was used, and the same spine phantom was scanned daily to monitor the machine's performance in study populations from different regions. The BMD of the phantom was adjusted to 1.032 ± 0.016 g/cm² ($\pm 1.5\%$) during all examinations. In addition, to exclude inter-observer variability, the same physician (N.Y.) examined all participants. In another study, N.Y. had measured the intra-observer variability in both *in vitro* and *in vivo* experiments using Lunar DPX.²⁰ In the case of the *in vitro* experiment, the coefficient of variance (CV) for the BMD of the L2–L4 vertebrae was 0.35%. In the case of the *in vivo* experiments, which were performed on five male volunteers, the CVs for the BMDs of the L2–L4 vertebrae, the proximal femur, Ward's triangle and the trochanter were 0.61–0.90, 1.02–2.57, 1.97–5.45 and 1.77–4.17%, respectively.

OP was defined on the basis of the World Health Organization (WHO) criteria; specifically, it was diagnosed when the BMD T-scores were lower than the mean lumbar peak bone mass minus 2.5 SDs.²¹

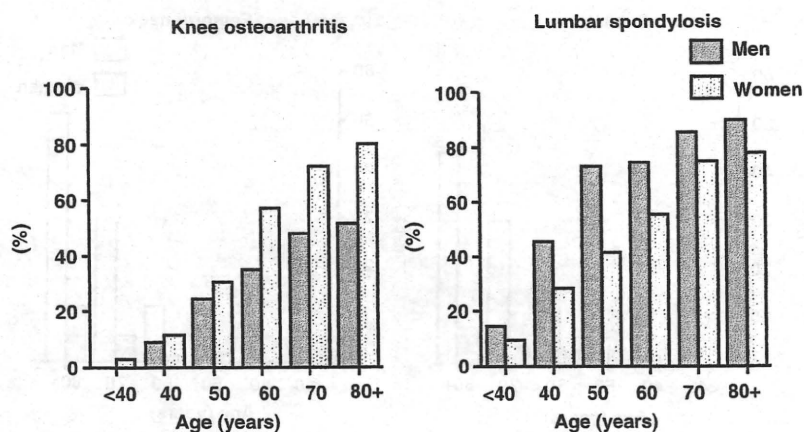


Figure 2 Prevalence of radiographic knee osteoarthritis and lumbar spondylosis, classified by age and gender

In Japan, the mean BMD of the L2–L4 vertebrae among both young male and female adults has been measured using Hologic DXA.²² These indices were used in the present study; lumbar spine BMD $<0.714 \text{ g/cm}^2$ (in case of both men and women), and femoral neck BMD $<0.546 \text{ g/cm}^2$ (men) or 0.515 g/cm^2 (women) were considered to indicate OP.

All assessments performed in the baseline study will be repeated at the first, second and third follow-ups.

What is attrition like?

The first follow-up (second examination) commenced on October 2008, 3 years from baseline assessment. By the end of 2008, follow-up was completed in Hidakagawa, the mountainous region. Of the 864 participants (319 men and 545 women) in the baseline study, 635 subjects (224 men and 411 women) attended the second examination. The response rate for the second examination in the mountainous area was 73.5%. The most common reasons for non-participation were illness and difficulty in visiting the clinic (43% of the dropouts). Further, 26 people (12% of the dropouts) who participated in the baseline study died during the 3-year period following the initial assessment. In other two areas, the follow-ups are on going. The total attrition will be determined at the end of March 2010.

What has the ROAD study found?

By analysing the data from the baseline study, we have determined the prevalence of OA and OP.

OA

The age–sex distribution of radiographic knee OA and lumbar spondylosis was calculated (Figure 2); both conditions were diagnosed at KL grades of ≥ 2 .

In the overall population, the prevalence of radiographic knee OA and lumbar spondylosis was 54.6% (42.0% in men and 61.5% in women) and 70.2% (80.6% in men and 64.6% in women), respectively. Thus, both the overall and sex-specific prevalence of lumbar spondylosis were higher than those of knee OA.²³

OP

The prevalence of OP was calculated for the participants from mountainous and coastal regions in the ROAD study (Figure 3). The prevalence of OP of the lumbar spine and femoral neck in women was 6- and 5-fold, respectively, than in men. The differences were significant ($P < 0.001$).²³

What are the main strengths and weaknesses of the ROAD study?

Strengths

In Japan, little epidemiological information is available of musculoskeletal diseases such as OA and OP. The ROAD study is the first large population-based prospective study conducted on the Japanese population and is designed to supply essential information, chiefly of OA and OP.

We confirmed the high prevalence of OA and OP among the ROAD study participants, and we will conduct follow-up examinations for at least 10 years in order to clarify the relationships of OA, OP and osteoporotic fractures with the following parameters: lifestyle, anthropometric and neuromuscular measurements, bone mass, bone geometry and fall propensity. Further, we will determine how these impairments affect QOL and mortality. We also expect to assess the similarities and differences in the risk factors of OA and OP. In addition, we will clarify the incident morbidity of other lifestyle-related disorders,

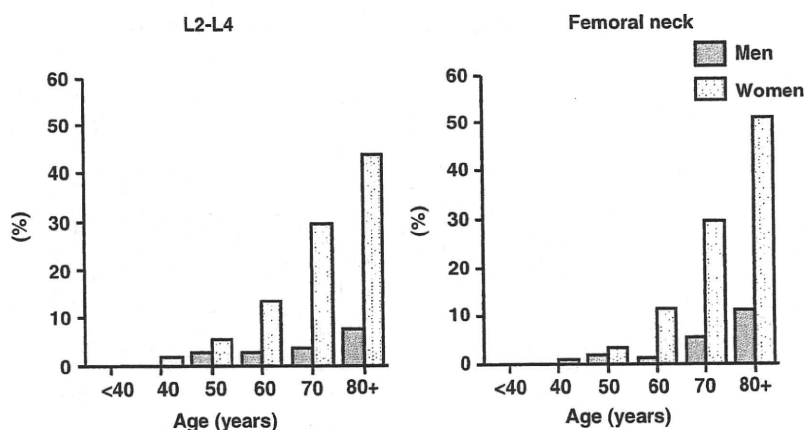


Figure 3 Prevalence of osteoporosis of the lumbar spine and femoral neck

such as obesity, hypertension, diabetes mellitus, cardiovascular and metabolic diseases and dementia.

The ROAD study data will facilitate the development of clinical guidelines for the detection and prevention of osteoporotic fractures in other countries. This study was designed such that it would be similar to the Study of Osteoporotic Fractures, a large observational study on the determinants of fractures in older women,²⁴ and to MrOS, a large observational study on the determinants of fractures in older men²⁵ in the USA.

Finally, the completion of the ROAD study will provide unique opportunities for the study of other conditions that are common among older men and women, such as obesity, diabetes, cardiovascular disease, cognitive disorders and frailty. The blood, plasma, serum and urine specimens stored during the ROAD study will enable the clarification of a variety of new biochemical and genetic factors associated with musculoskeletal disorders and the aforementioned diseases.

Weaknesses

Although the ROAD study includes a large number of subjects (more than 3000), these subjects are voluntary participants and have been recruited from only three areas; hence, they do not truly represent the general population. The 'healthy' and 'regional' selection biases should be confirmed.²⁶ We could not directly compare the baseline characteristics between the responders and non-responders owing to lack of data regarding the non-responders. Hence, to determine whether a selection bias existed in the ROAD study, we compared the anthropometric measurements and frequencies of smoking and alcohol drinking between the participants and the general Japanese population. The values for the general population were obtained from the 2005 National Health and Nutrition Survey conducted by the Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan, which is an annual survey to clarify the health status of the Japanese population and is

conducted on approximately 18 000 inhabitants from 6000 randomly selected families.²⁷

The BMIs of ROAD study participants and the Japanese population were compared (Table 3). No significant differences were identified, except that the male participants aged 70–74 years were significantly smaller in build than men of this age group in the overall Japanese population ($P < 0.05$).

The proportion of current smokers and current drinkers (those who regularly smoked or drank more than once a month) in the general Japanese population was compared with that in the study population (Figure 4). Both proportions were significantly higher in the general Japanese population than in the study population (smokers: men, $P < 0.001$ and women, $P < 0.001$; drinkers: men, $P < 0.01$ and women, $P < 0.001$), suggesting that participants of the ROAD study had healthier lifestyles than the general Japanese population. This bias due to the selection of 'healthy' individuals should be taken into consideration while generalizing the results of the ROAD study.

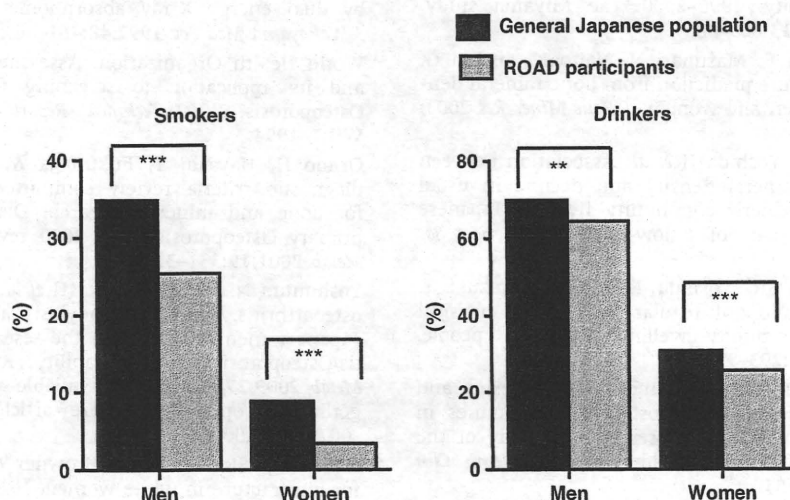
Further, BMD was measured only in the participants from the mountainous and coastal areas. The total number of participants from these two areas (1690) may be large enough to accurately estimate the incidence and evaluate risk factors. Nevertheless, regional bias should be taken into account while generalizing the results.

Can I get hold of the data? Where can I find out more?

The ROAD study group welcomes specific and detailed proposals for new collaborations. Initial enquiries should be addressed to N.Y. Some information about the ROAD study is available on the website of the Department of Joint Disease Research, 22nd Century Medical and Research Centre,

Table 3 Comparison of BMI (SD) (kg/m²) of the participants with general Japanese population

Age strata (years)	Men		Women	
	ROAD	Japanese	ROAD	Japanese
40-49	24.5 (4.4)	24.0 (3.3)	21.9 (4.1)	22.4 (3.5)
50-59	23.6 (2.9)	23.7 (3.1)	23.0 (3.3)	23.1 (3.4)
60-69	23.8 (3.2)	23.8 (2.9)	23.3 (3.2)	23.5 (3.7)
70-74	23.1 (2.8)	23.7 (3.2)	23.4 (3.5)	23.2 (3.4)
75-79	22.8(2.9)	23.3 (3.0)	23.0 (3.7)	23.4 (3.5)
≥80	22.6 (2.9)	22.3 (2.6)	22.2 (3.2)	22.5 (4.0)

**Figure 4** Comparison of the proportion of current smokers and drinkers between the participants of the ROAD study and the general Japanese population. ** $P < 0.01$, *** $P < 0.001$

University of Tokyo Hospital (<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/center22/kansetu.html>).

Funding

Grant-in-Aid for Scientific Research [B20390182] to N.Y., [C20591737] to T.A. and [C20591774] to S.M. Young Scientists [A18689031] to H.O.; collaborating Research with National Science Foundation (NSF) [08033011-00262] (Director, N.Y.); the Ministry of Education, Culture, Sports and Science and Technology [H17-Men-eki-009] (Director, K.N.), [H18-Choujyu-037] (Director, T.N.) and [H20-Choujyu-009] (Director, N.Y.); and the Ministry of Health, Labour and Welfare in Japan. Japan Osteoporosis Society and Nakatomi Foundation to N.Y. and research aid from the Japanese Orthopaedic Association (Director, H.K.).

Acknowledgements

The authors wish to thank Mrs Tomoko Takijiri, Mrs Kumiko Shinou and other staff of the public office

in Hidakagawa town, and Mrs Tamako Tsutsumi, Mrs Kanami Maeda and other staff of the public office in Taiji town for their assistance in locating participants and scheduling examinations.

Conflict of interest: None declared.

References

- Ministry of Health, Labour and Welfare. Outline of the results of National Livelihood Survey 2004. http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa_04/4-2.html (5 August 2009, date last accessed).
- Yamamoto I. Estimation for the number of patients of Osteoporosis in Japan. *Osteoporosis Jpn* 1999;7:10-11 (in Japanese).
- Muraki S, Yamamoto S, Ishibashi H, Nakamura K. Factors associated with mortality following hip fracture in Japan. *J Bone Miner Metab* 2006;24:100-4.
- Jornell O, Kanis JA, Oden A *et al.* Mortality after osteoporotic fractures. *Osteoporosis Int* 2004;15:38-42.
- Yoshimura N, Dennison E, Wilman C, Hashimoto T, Cooper C. Epidemiology of chronic disc degeneration and osteoarthritis of the lumbar spine in Britain

- and Japan: a comparative study. *J Rheumatol* 2000;**27**: 429–33.
- ⁶ Yoshida S, Aoyagi K, Felson DT, Aliabadi P, Shindo H, Takemoto T. Comparison of the prevalence of radiographic osteoarthritis of the knee and hand between Japan and the United States. *J Rheumatol* 2002;**29**: 1454–58.
- ⁷ Yoshimura N, Hashimoto T, Morioka S, Sakata K, Kasamatsu T, Cooper C. Determinants of bone loss in a rural Japanese community. The Taiji Study. *Osteoporosis Int* 1998;**8**:604–10.
- ⁸ Yoshimura N, Kinoshita H, Danjoh S *et al.* Bone loss at the lumbar spine and the proximal femur in a rural Japanese community, 1990–2000: the Miyama study. *Osteoporosis Int* 2002;**13**:803–88.
- ⁹ Fujiwara S, Kasagi F, Masunari N, Naito K, Suzuki G, Fukunaga M. Fracture prediction from bone mineral density in Japanese men and women. *J Bone Miner Res* 2003; **18**:1547–53.
- ¹⁰ Kwon J, Suzuki T, Yoshida H *et al.* Association between change in bone mineral density and decline in usual walking speed in elderly community-dwelling Japanese women during 2 years of follow-up. *J Am Geriatr Soc* 2007;**55**:240–44.
- ¹¹ Shimada H, Lord SR, Yoshida H, Kim H, Suzuki T. Predictors of cessation of regular leisure-time physical activity in community-dwelling elderly people. *Gerontology* 2007;**53**:293–97.
- ¹² Orwoll E, Blank JB, Barrett-Connor E *et al.* Design and baseline characteristics of the osteoporotic fractures in men (MrOS) study: a large observational study of the determinants of fracture in older men. *Contemp Clin Trials* 2005;**26**:569–85.
- ¹³ Bellamy N, Buchanan WW, Goldsmith CH, Campbell J, Stitt LW. Validation study of WOMAC: a health status instrument for measuring clinically important patient relevant outcomes to antirheumatic drug therapy in patients with osteoarthritis of the hip or knee. *J Rheum* 1998;**15**:1833–40.
- ¹⁴ Johnson JA, Coons SJ, Ergo A, Szava-Kovats G. Valuation of EuroQOL (EQ-5D) health states in an adult US sample. *Pharmacoeconomics* 1998;**13**:421–33.
- ¹⁵ Fukuhara S, Suzukao Y. Manual of the SF-8 Japanese version. *Institute for Health Outcomes and Process Evaluation Research*. Kyoto, 2004.
- ¹⁶ Washburn RA, Smith KW, Jette AM, Janney CA. The physical activity scale for the elderly (PASE): development and evaluation. *J Clin Epidemiol* 1993;**46**: 153–62.
- ¹⁷ Sasaki S, Yanagibori R, Amano K. Self-administered diet history questionnaire developed for health education: a relative validation of the test-version by comparison with 3-day diet record in women. *J Epidemiol* 1998;**8**: 203–15.
- ¹⁸ Teng EL, Chui HC. The modified mini-mental state (3MS) examination. *J Clin Psychiatry* 1987;**48**:314–18.
- ¹⁹ Kellgren JH, Lawrence LS. Radiological assessment of osteo-arthrosis. *Ann Rheum Dis* 1957;**16**:494–502.
- ²⁰ Yoshimura N, Kakimoto T, Nishioka M *et al.* Evaluation of reproducibility of bone mineral density measured by dual energy X-ray absorptiometry (Lunar DPX-L). *J Wakayama Med Soc* 1997;**48**:461–66.
- ²¹ World Health Organization. Assessment of fracture risk and its application to screening for postmenopausal Osteoporosis. *WHO Technical Report Series 843*. Geneva: WHO, 1994.
- ²² Orimo H, Hayashi Y, Fukunaga M *et al.* Osteoporosis diagnostic criteria review committee: Japanese society for bone and mineral research. Diagnostic criteria for primary Osteoporosis: year 2000 revision. *J Bone Miner Metab* 2001;**19**:331–37.
- ²³ Yoshimura N, Muraki S, Oka H *et al.* Prevalence of knee osteoarthritis, lumbar spondylosis and Osteoporosis in Japanese men and women: the research on osteoarthritis/Osteoporosis against disability (ROAD). *J Bone Miner Metab* 2009;**27** (in press). Available at (<http://www.springerlink.com/openurl.asp?genre=article&id=doi:10.1007/s00774-009-0080-8>).
- ²⁴ Cummings SR, Nevitt MC, Browner WS *et al.* Risk factors for hip fracture in white women. *N Engl J Med* 1995;**332**: 767–74.
- ²⁵ Cummings SR, Cawthon PM, Ensrud KE, Cauley JA, Fink HA, Orwoll ES. Osteoporotic fractures in men (MrOS) research groups. Study of osteoporotic fractures research groups. BMD and risk of hip and nonvertebral fractures in older men: a prospective study and comparison with older women. *J Bone Miner Res* 2006;**21**:1550–60.
- ²⁶ Coggon D, Rose G, Barker DJP (eds). *Epidemiology for the Uninitiated*. 4th edn. BMJ Publishing Group, 1997. Available at <http://bmj.bmjournals.com/epidem/epid.html>. (5 August 2009, date last accessed).
- ²⁷ Ministry of Health, Labour and Welfare. The Report of National Health and Nutrition Survey 2005. <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eiyou07/01.html>.

Transcriptional regulation of endochondral ossification by HIF-2 α during skeletal growth and osteoarthritis development

Taku Saito^{1,2}, Atsushi Fukai¹, Akihiko Mabuchi³, Toshiyuki Ikeda², Fumiko Yano⁴, Shinsuke Ohba⁴, Nao Nishida³, Toru Akune⁵, Noriko Yoshimura⁵, Takumi Nakagawa¹, Kozo Nakamura¹, Katsushi Tokunaga³, Ung-il Chung⁴ & Hiroshi Kawaguchi¹

Chondrocyte hypertrophy followed by cartilage matrix degradation and vascular invasion, characterized by expression of type X collagen (COL10A1), matrix metalloproteinase-13 (MMP-13) and vascular endothelial growth factor (VEGF), respectively, are central steps of endochondral ossification during normal skeletal growth and osteoarthritis development. A *COL10A1* promoter assay identified hypoxia-inducible factor-2 α (HIF-2 α , encoded by *EPAS1*) as the most potent transactivator of *COL10A1*. HIF-2 α enhanced promoter activities of *COL10A1*, *MMP13* and *VEGFA* through specific binding to the respective hypoxia-responsive elements. HIF-2 α , independently of oxygen-dependent hydroxylation, was essential for endochondral ossification of cultured chondrocytes and embryonic skeletal growth in mice. HIF-2 α expression was higher in osteoarthritic cartilages versus nondiseased cartilages of mice and humans. *Epas1*-heterozygous deficient mice showed resistance to osteoarthritis development, and a functional single nucleotide polymorphism (SNP) in the human *EPAS1* gene was associated with knee osteoarthritis in a Japanese population. The *EPAS1* promoter assay identified RELA, a nuclear factor- κ B (NF- κ B) family member, as a potent inducer of HIF-2 α expression. Hence, HIF-2 α is a central transactivator that targets several crucial genes for endochondral ossification and may represent a therapeutic target for osteoarthritis.

Endochondral ossification is an essential process not only for physiological skeletal growth¹, but also for development of osteoarthritis, which is the most common joint disorder and is characterized by cartilage degradation and osteophyte formation^{2–7}. The process of endochondral ossification requires both the hypertrophic differentiation of chondrocytes, which is characterized by secretion of COL10A1, and the conversion of avascular cartilage tissue into highly vascularized bone tissue via degradation of the cartilage matrix and vascular invasion^{1,8}. The matrix degradation requires proteinases, among which MMP-13 has a major role^{8,9}, and the vascular invasion depends on an angiogenic switch by VEGF^{8,10}. These steps of chondrocyte hypertrophy, cartilage degradation and vascular invasion are well coordinated; however, the molecular mechanism that extensively controls the sequential steps remains an enigma. Here we initially performed a screen of transcription factors that potentiate the expression of *COL10A1* and identify HIF-2 α , an α -subunit member of the HIF family, as the most potent transactivator.

The HIF protein family consists of α - and β -subunit members that function by forming heterodimers¹¹. Under normoxic conditions, the α -subunit members HIF-1 α , HIF-2 α and HIF-3 α undergo oxygen-dependent hydroxylation, resulting in ubiquitination and degradation

by the proteasome^{12,13}. In contrast, under hypoxic conditions, they are neither hydroxylated nor degraded, and they heterodimerize with the constitutive β -subunit members known as aryl hydrocarbon receptor nuclear translocator (ARNT), ARNT2, ARNT-like (ARNTL) and ARNTL2. The heterodimers activate transcription of the target genes by binding the consensus sequence called hypoxia-responsive element (HRE) in the promoters¹¹. As cartilage is an avascular and hypoxic tissue, HIF proteins may have a crucial role in the functions of chondrocytes, and, in fact, HIF-1 α is known to be a potent regulator of cartilage homeostasis^{14–16}. However, HIF-2 α and HIF-1 α are not functionally redundant^{17–21}, and little is known about the function of HIF-2 α in chondrocytes. Here we examined the role of HIF-2 α in endochondral ossification during skeletal growth and osteoarthritis development and investigate the underlying mechanism.

RESULTS

Identification of HIF-2 α as a transactivator of *COL10A1*

We initially performed a screen of transcription factors that induce hypertrophic differentiation using mouse chondrogenic ATDC5 cells and human nonchondrogenic HeLa cells transfected with a proximal promoter fragment of the *COL10A1* gene. For candidate molecules, we

¹Sensory & Motor System Medicine, University of Tokyo, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan. ²Bone and Cartilage Regenerative Medicine, University of Tokyo, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan. ³Human Genetics, University of Tokyo, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan. ⁴Center for Disease Biology and Integrative Medicine, University of Tokyo, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan. ⁵22nd Century Medical and Research Center, Faculty of Medicine, University of Tokyo, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan. Correspondence should be addressed to H.K. (kawaguchi-ort@h.u-tokyo.ac.jp).

Received 10 February; accepted 8 March; published online 23 May 2010; doi:10.1038/nm.2146

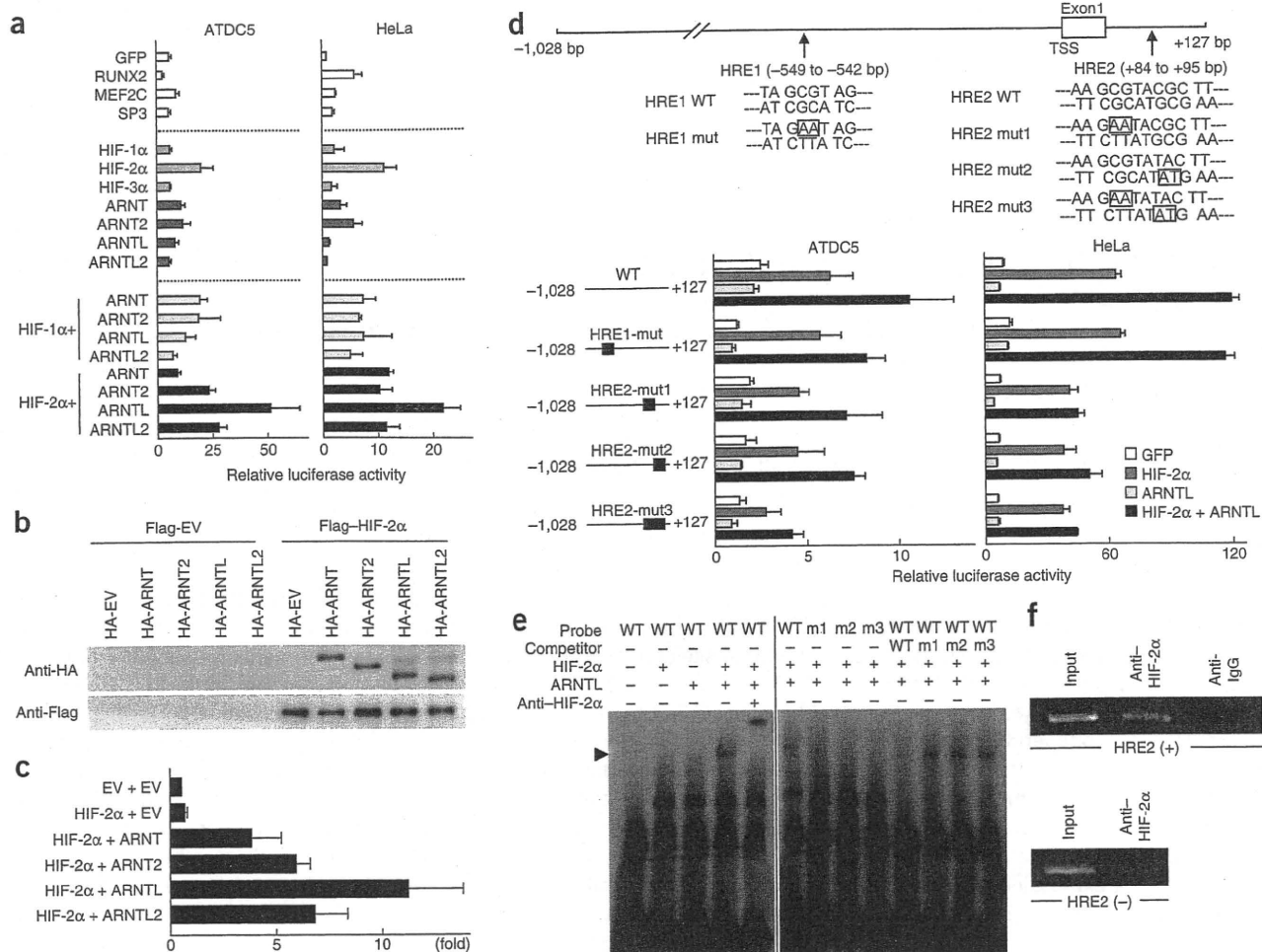


Figure 1 Transcriptional regulation of *COL10A1* by HIF-2 α . (a) Luciferase assay for screening transcription factors that activate the *COL10A1* promoter by the transfections of candidate genes into ATDC5 and HeLa cells with a reporter construct containing a fragment (-1,028 to +127 bp) of the *COL10A1* gene. Data are shown as means \pm s.d. (b) Immunoprecipitation and immunoblotting analysis by co-transfections of Flag-tagged HIF-2 α or the control empty vector (EV) and hemagglutinin (HA)-tagged β -subunit members or the EV in ATDC5 cells. (c) Mammalian two-hybrid assay by transfections of vectors expressing GAL4-HIF-2 α and VP16- β -subunit fusion proteins with the luciferase reporter vector with GAL4 binding sites into HeLa cells. Data are shown as means \pm s.d. of relative fold increase in luciferase activity as compared to EV + EV (which is arbitrarily set to 1). (d) Site-directed mutagenesis analyses of the luciferase assay; one in HRE1 and three in HRE2 (+87 and +88 for mut1, +91 and +92 for mut2, and both for mut3), in the two cell lines transfected with GFP, HIF-2 α , ARNTL or both HIF-2 α and ARNTL. Data are shown as means \pm s.d. (e) EMSA for specific binding (arrowhead) of the wild-type (WT) oligonucleotide probe containing HRE2 or the mutated probes described in d (m1, m2 and m3) with *in vitro*-translated HIF-2 α , ARNT or both. Supershift by an antibody to HIF-2 α (anti-HIF-2 α) and cold competition with a 50-fold excess of unlabeled WT or the mutated probe are presented. (f) ChIP assay with cell lysates of human chondrogenic SW1353 cells that were amplified by a primer set spanning the HRE2 (+, +32 to +249 bp) or not spanning the HRE2 (-, -2,131 to -1,900 bp) before (input) and after immunoprecipitation with anti-HIF-2 α or nonimmune IgG (anti-IgG).

prepared expression vectors of more than 100 transcription factors that are known to be expressed in chondrocytes, including HIF proteins, runt-related transcription factor-2 (RUNX2)^{1,22}, myocyte enhancer factor-2C (MEF2C)²³ and specificity protein-3 (SP3)²⁴ (Fig. 1a). Among them, HIF-2 α showed the strongest activation in both cell lines. Although all β -subunit members were physically associated with HIF-2 α in ATDC5 cells (Fig. 1b), ARNTL showed the strongest binding affinity to HIF-2 α (Fig. 1c), and HIF-2 α -ARNTL was the most potent combination for *COL10A1* transactivation (Fig. 1a).

In the *COL10A1* promoter, we identified two HREs by the consensus sequence [A/G]CGT (ref. 25), one in the 5'-end flanking region (HRE1) and the other in intron 1 (HRE2) (Fig. 1d). We introduced mutations in HRE1 and HRE2, but only the latter mutation resulted in suppression of transactivation by HIF-2 α and the HIF-2 α -ARNTL combination

(Fig. 1d). We then confirmed the specific binding of the HIF-2 α protein to HRE2 by electrophoretic mobility shift assay (EMSA) and chromatin immunoprecipitation (ChIP) assay (Fig. 1e,f).

HIF protein expression during chondrocyte differentiation

Although the HIF α - and β -subunit members were widely expressed in major tissues of adult mice, *Epas1* was most predominantly expressed in the tracheal cartilage (Supplementary Fig. 1a). During differentiation of ATDC5 cells, *Epas1* expression increased in accordance with the three representative factors for central steps of endochondral ossification: *Col10a1*, *Mmp13* and *Vegfa*, whereas *Hif1a* expression was strong at the early stage and decreased thereafter (Fig. 2a). *Hif3a* expression was very low, and the β -subunit members were extensively expressed in all differentiation stages (Fig. 2a).

Figure 2 *In vitro* and *in vivo* expression patterns of the HIF α - and β -subunit members and Col10a1, Mmp-13 and Vegf during chondrocyte differentiation. (a) Time course of mRNA levels of the indicated genes during differentiation of mouse chondrogenic ATDC5 cells cultured with ITS (insulin, transferrin and sodium selenite) for 3 weeks and for 2 d more with inorganic phosphate (Pi). Data are expressed as means \pm s.d. (b) H&E staining and immunofluorescence with antibodies to the indicated proteins, as well as a nonimmune control, in the proximal tibias of mouse embryos (embryonic day 18.5 (E18.5)). Scale bars, 100 μ m. Red and blue bars to the left of each row indicate layers of proliferative and hypertrophic zones, respectively.

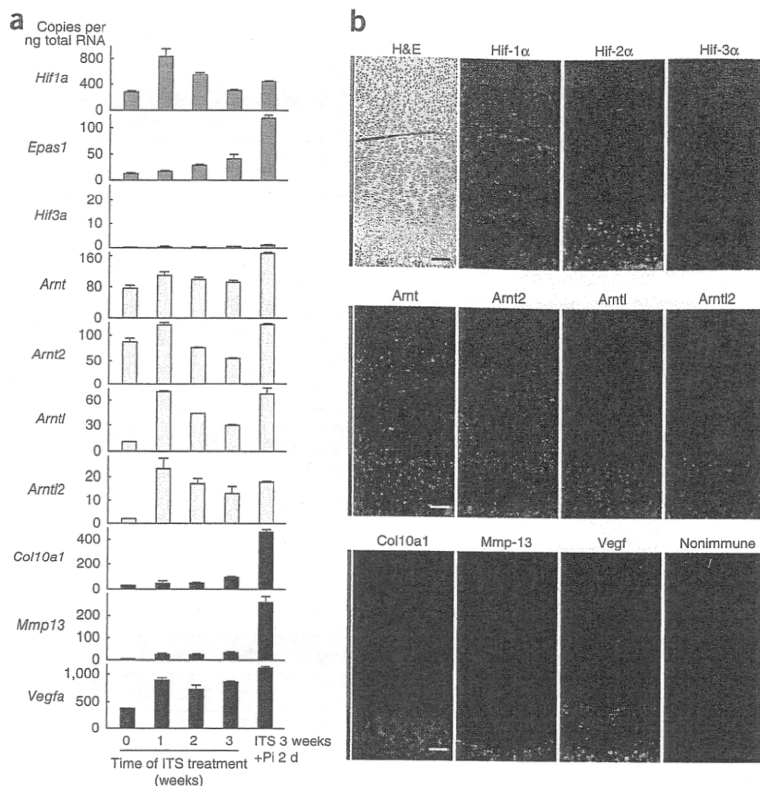
In tibial limb cartilage of mouse embryos, Hif-2 α was localized primarily in the hypertrophic zone, similarly to Col10a1, Mmp-13 and Vegf (Fig. 2b). In contrast, Hif-1 α was predominantly localized in chondrocytes at earlier differentiation stages in the proliferative zone, and Hif-3 α was hardly detectable (Fig. 2b). The localizations of Arntl and Arntl2 were similar to Hif-2 α , whereas those of Arnt and Arnt2 were similar to Hif-1 α (Fig. 2b).

Physiological role of HIF-2 α in endochondral ossification

To determine the involvement of HIF-2 α in skeletal growth, we investigated the skeletal phenotype of *Epas1*-deficient mice. The homozygous deficient mutants (*Epas1*^{-/-}) were extraordinarily small and died at the early embryonic stage, as reported previously^{20,21} (Fig. 3a). Although the heterozygous deficient mutants (*Epas1*^{+/-}) developed and grew without abnormalities of major organs, they showed mild but proportional dwarfism compared to wild-type littermates from embryonic stages up to 1 week after birth (Fig. 3a,b and Supplementary Fig. 1b). In the embryos, the limbs and vertebrae were 7–16% shorter in *Epas1*^{+/-} mice than in the wild-type littermates (Fig. 3c). Although the actual length of the proliferative zone of the *Epas1*^{+/-} limb was comparable to that of wild-type, the percentage of the proliferative zone relative to the total limb length was moderately increased (Fig. 3d,e) with normal BrdU-positive proliferative cells but suppressed Col10a1 expression (Fig. 3f,g), indicating impaired hypertrophic differentiation without an effect on proliferation caused by Hif-2 α insufficiency. The percentage of the hypertrophic zone relative to the total limb length was also increased and that of the bone area was considerably decreased in the *Epas1*^{+/-} limbs (Fig. 3d,e), indicating that Hif-2 α insufficiency impaired not only chondrocyte hypertrophy but also subsequent steps such as matrix degradation and vascularization. This difference was gradually decreased with developmental compression of the hypertrophic zone after birth (Supplementary Fig. 1c). Immunohistochemistry confirmed that Mmp-13 and Vegf, as well as Col10a1, were suppressed by the Hif-2 α insufficiency, which may cause the decrease in cartilage calcification shown by von Kossa staining (Fig. 3f).

Function of HIF-2 α in cultured chondrocytes

In cultured ATDC5 cells, *Col10a1*, *Mmp13* and *Vegfa* amounts, as well as the activity of alkaline phosphatase and Alizarin red



staining (both indicators of differentiation), were increased by overexpression of HIF-2 α or the HIF-2 α -ARNTL combination, whereas none of the expression levels or staining was affected by ARNTL alone (Fig. 4a). To examine the regulation of HIF-2 α function by oxygen-dependent hydroxylation, we created ATDC5 lines overexpressing four kinds of HIF-2 α mutants bearing mutations at the oxygen-dependent hydroxylation residues, including N847A and P531A (or both), which result in enhancement of the transactivation activity of the protein even under normoxic conditions, as well as P849A, which abrogates transactivation activity even under hypoxic conditions¹³. We found that none of these mutations affected the HIF-2 α action on endochondral ossification parameters (Fig. 4b). All parameters were decreased, however, by loss of function of HIF-2 α in ATDC5 cells achieved through overexpression of a dominant-negative mutant or expression of an siRNA specific for HIF-2 α (Fig. 4c). In addition to ATDC cells, primary chondrocytes derived from *Epas1*^{+/-} mice showed suppressed expression of the three factors, and the suppression of each factor was restored to wild-type levels by adenoviral overexpression of HIF-2 α (Fig. 4d).

We then examined the transcriptional regulation of *MMP13* and *VEGFA* by HIF-2 α . Among the α - and β -subunit members of the HIF proteins, HIF-2 α most notably transactivated both *MMP13* and *VEGFA*, and the transactivation was further enhanced by ARNTL (Supplementary Fig. 2a,b), as is true for *COL10A1* (Fig. 1a). Deletion and site-directed mutagenesis analyses of the luciferase assay identified the core responsive elements to HIF-2 α and the HIF-2 α -ARNTL combination at HRE3 (-106 to -101) and HRE4 (-982 to -977) in the promoters of *MMP13* and *VEGFA*, respectively (Supplementary Fig. 2c,d). Further EMSA and ChIP assays confirmed the specific binding of the HIF-2 α protein to HRE3 and HRE4 (Supplementary Fig. 2e-h).

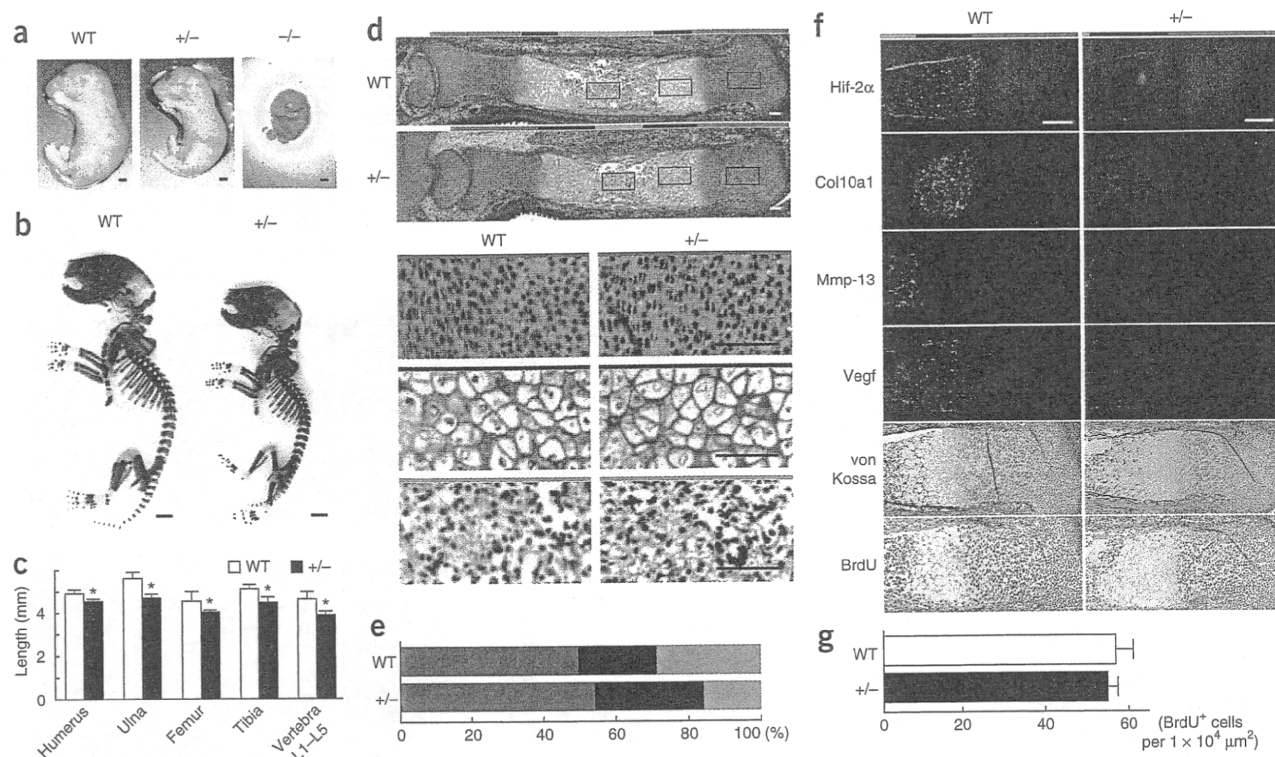


Figure 3 Skeletal abnormality in *Epas1*-deficient mice. (a) Wild-type (WT), heterozygous-deficient (*Epas1*^{+/-}) and homozygous-deficient (*Epas1*^{-/-}) littermate embryos (E17.5). All *Epas1*^{-/-} embryos died at mid-gestation. Scale bars, 1 mm. (b) Double staining with Alizarin red and Alcian blue of the whole skeleton of WT and *Epas1*^{+/-} littermate embryos (E17.5). Scale bars, 1 mm. (c) Length of long bones and vertebra (first to fifth lumbar spines) of WT and *Epas1*^{+/-} littermate embryos. Data are expressed as means \pm s.d. * $P < 0.05$ versus WT. (d) H&E staining of whole tibias of the WT and *Epas1*^{+/-} littermate embryos. Inset boxes indicate the regions of the bottom three rows representing proliferative zone, hypertrophic zone and bone area, shown by red, blue and green bars, respectively. Scale bars, 100 μ m. (e) Percentage of the length of proliferative zone (red), hypertrophic zone (blue) and bone area (green) over the total tibial length of the WT and *Epas1*^{+/-} littermate embryos. (f) Immunofluorescence with antibodies to Hif-2 α , Col10a1, Mmp-13 and Vegf, as well as bromodeoxyuridine (BrdU) labeling and von Kossa staining of the proximal tibias of WT and *Epas1*^{+/-} littermate embryos (E17.5). Color bars indicate layers as indicated in d. Scale bars, 200 μ m. (g) The number of BrdU-positive cells in $1 \times 10^4 \mu\text{m}^2$ of the proximal tibia of WT and *Epas1*^{+/-} littermate embryos. Data are expressed as means \pm s.d.

Contribution of HIF-2 α to osteoarthritis in mice and humans

We next compared osteoarthritis development between adult littermates of wild-type and *Epas1*^{+/-} mice that had undergone comparable skeletal growth after birth (Supplementary Fig. 1b) by creating a surgical osteoarthritis model through induction of instability to the knee joints^{4,5}. The expression of Hif-2 α , as well as of Col10a1, Mmp-13 and Vegf, increased in the joint cartilage with osteoarthritis development for 8 weeks after surgery in the wild-type mice; however, in the *Epas1*^{+/-} littermates, the cartilage degradation and the expression of the three factors were notably suppressed (Fig. 5a). Quantification by grading systems^{4,26} confirmed that the Hif-2 α insufficiency caused significant resistance to cartilage degradation and osteophyte formation (Fig. 5b). There was no difference in the subchondral bones between the two genotypes under the sham operation, suggesting that the *Epas1* deficiency does not affect physiological bone homeostasis. However, after surgical induction, subchondral bone sclerosis, an osteoarthritic disorder secondary to cartilage destruction, was apparent in the wild-type joints, whereas it was suppressed in the *Epas1*^{+/-} joints (Supplementary Table 1).

In human knee joint samples, as well, the HIF-2 α expression increased with osteoarthritis development, reached a maximum at the initial and progressive stages and decreased thereafter at the terminal stage, although it was hardly detected in subchondral bone or synovium (Fig. 5c). To further investigate a possible

association of the human *EPAS1* gene with knee osteoarthritis of humans, we searched a Japanese population-based cohort of the ROAD study²⁷ for sequence variations in exons and the 5'-end flanking region up to -1,000 bp from the transcription start site (TSS) of the human *EPAS1* gene and identified only one common SNP with a minor allele frequency > 0.1 , rs17039192 (+18C and +18T for major and minor alleles, respectively, relative to the TSS; minor allele frequency = 0.132) (Fig. 5d). A comparison of allelic frequencies between 397 individuals with knee osteoarthritis and 437 controls showed significant association of the rs17039192 SNP with knee osteoarthritis ($P = 0.013$, odds ratio = 1.44) (Fig. 5d). Because this SNP was located close to the TSS, we further examined the effects of the allelic difference (+18C/T) on *EPAS1* promoter activity in chondrogenic and nonchondrogenic cells transfected with a luciferase reporter gene and the *EPAS1* promoter fragment (-1,000 bp to 488 bp) containing +18C or +18T. The susceptibility allele (18C) showed higher promoter activity in chondrogenic cells, but not in nonchondrogenic cells (Fig. 5e), confirming that enhanced transactivation of *EPAS1* in chondrocytes is associated with osteoarthritis in humans.

Molecular network around HIF-2 α in endochondral ossification

Regarding downstream molecules of HIF-2 α , we have focused on COL10A1, MMP-13 and VEGF as representative factors for the